

アンケート調査でもインタビューでも、「巣箱が重い」という声が聞かれました。こうした声に応じて、深さが半分の貯蜜用の巣箱（①）や、巣枠7枚用の巣箱（②）が紹介されています。

また、巣箱をはさんで運ぶよう、一輪車もできています（③）。※②の小さめ巣箱にも対応できるようサイズ調整機能付きのものもあります。

こうした、道具類の開発は、女性だけでなく、高齢の養蜂家やケガをした際の助けにもなります。

今後、さまざまな技術開発によって、身体への負荷を和らげ、より安全な労働環境が実現することが期待されます。



③



撮影協力：熊谷養蜂株式会社